

# 国立大学法人信州大学 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

## 1. 調査研究概要

令和2年度に信州大学と長野市教育センターと共同において校内OJTに対応した「カリキュラム・マネジメント ハンドブック」を作成したことから、実践校3校で各テーマに基づきカリキュラム・マネジメントに係わる教職員の資質・能力の育成をめざす実践的研究を行った。本年度もコロナ禍が続く中、年度当初策定した教育計画通りに学習活動が展開できない事態と、新学習指導要領完全実施2年目とはいえ昨年度の実績が変則的でありすぎたため本年度の学習展開のベースに活用しづらいという環境の中、改めて地域に根ざした教育課程の編成と教育実践のあり方を問う機会となり、「学校での学び」、「家庭での学び」、「GIGAスクール構想に対応した学び」について模索し、子供たち自らが「問い」を持ち追究する学びを創造する教育課程の編成の在り方や指導法についての研究を行った。

教育センターの集合研修においては、「カリキュラム・マネジメント ハンドブック」を活用し、受講者が自校に戻ってOJTとして伝達研修が展開できるように努めた。

各校での実践は地域の教育資源を活用したものであるが、これまでの教育実践の継承や教育内容の系統という観点からすると、教師個々の資質・能力に依存した教育実践の域にあることは否めない状況である。一つ一つの実践を共有データとしての次の実践や教育課程の編成にどのように生かしていくかが大きな課題といえる。同時に、単年度・一学年でのまとまりという発想から学年間・学校種間の学びの系統性等について意識化した実践の展開について研究を深めていくことが課題である。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
6月	第1回カリキュラム・マネジメント検討会議(研究推進について)
7月	第1回研究推進会議(ICT活用と1学期の教育内容の確認等)
7月	第2回研究推進会議(1学期前半の反省) 第2回カリキュラム・マネジメント検討会議(1学期の研究進捗状況の確認等)
8月	教育センターでの集合研修 第3回研究推進会議(2学期の教育内容の確認等)
9月	第3回カリキュラム・マネジメント検討会議(研修内容・教育内容とICT活用の検討等) 第4回研究推進会議(教科横断的な学習の内容検討等)
10月	第5回研究推進会議(ICT活用と基礎学力の定着の検討等) 第4回カリキュラム・マネジメント検討会議(ICT活用と年間指導計画等の検討等)

11月	第6回研究推進会議(地域連携のあり方等の検討等)
12月	実地視察対応(長野市立松代小学校) 第7回研究推進会議(実地視察での指導を受けて等)
1月	第5回カリキュラム・マネジメント検討会議(実地視察での指導を受けて) 第8回研究推進会議(2学期の成果と反省・3学期の教育内容の確認)
2月	第9回研究推進会議(来年度にむけて、教育内容の系統等)

## 2. 調査研究の内容

### 実践校【長野市立松代小学校】

#### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等(目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など)の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

#### (2) 調査研究の内容

長野市教育センターが昨年度作成した「カリキュラム・マネジメント ハンドブック」を活用し、市教委の教育振興基本計画に基づいた学校経営グランドデザインの設計と情報活用能力の育成に関わる到達目標の設定や、目標に即した系統性を重視し、地域の教育資源を活用した教育課程を教職員全体で編成し教育実践を試みる。

#### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

##### [成果]

##### ① グランドデザインの作成・点検に関して

全教職員で、前年度の学校教育目標の達成状況を確認し、地域の教育資源を活用した子供たちが主体的・対話的に学ぶ学習活動を想定し、保護者や子供たちにも理解しやすく、何を達成すればよいかの具体を絞り込んだ学校教育目標へと改善を試みた。学期ごとに、教育課程全体を職員研修で見直した。この作業を通して、グランドデザインの作成や点検は、教職員全員で行うことが重要である意識を醸成できたと同時に、状況に応じて臨機応変に変更していくことも重要であることを再認識することができた。

##### ② 学校教育目標の具現に向けての地域資源の活用について

重点の「かしこく」に対応し、主体的・協働的な学びを促進するための「問い」や「願い」を大切にした学びの実践化に向けて以下の5点を核に教育実践に取り組んだ。

- ・子どもの「問い」の設定
- ・地域に根ざした「松代」の学習
- ・児童が提案・企画する学校行事
- ・NIE活動の充実
- ・外部講師による教員研修

特に地域の教育資源の活(教材化)については、各学年で以下の総合的な学習をコアに

教科学習と特別活動等を関連付けた学習に取り組んだ。

- ・ 1年生…『私たちの街「松代」を知ろう』（川あそび・松代さんぽ）
- ・ 2・3年生…『私たちの街「松代のよさ」を見つけよう』（松代探検）  
※視察授業…「店で働く人の仕事工夫（現金屋さん）」（第3学年社会）での実践
- ・ 4年生…『松代の歴史の深さや人を知ろう』（長いも作り・長岡助治郎先生・大門踊り）
- ・ 5年生…『松代の人・物やその営みにふれてみよう』（文武学校）
- ・ 6年生…『ふるさと松代のよさを見つめ返し ふるさとを大切にしよう』（佐久間象山先生・真田節）

### ③ 情報活用能力の育成に関わる到達目標の設定

GIGAスクール構想により一人一台のタブレット(iPad)が配置されたことから、発達段階に応じた情報活用能力の育成に関わる到達目標を検討し、以下の項目を設定した。

- ・ 低学年：直接体験や人とのかかわりを通して、知りたい、伝えたいという思いを育てる。
- ・ 中学年：個人や共同作業による調べ学習や表現活動を通して、基礎的な情報活用の実践力を育てる。
- ・ 高学年：個人や共同学習による主体的な課題解決活動を通して、情報活用の実践力を高める。

### ④ 全体としての成果

・ 「児童が主体的・協働的に学びを深める学校」づくりが達成できたかという観点で、グランドデザインを「やさしく」「かしこく」「たくましく」の項目ごとに振り返りを行ったことで、一部教科担任制や異学年合同授業が学びを深める多様な指導・支援につながった

・ 主体的・協働的に学ぶ姿の具現に向けた実践(含異学年交流)を通して、目標を持って取り組む姿勢や他者と折り合いをつけていくコミュニケーション力の向上、次へとつながる達成感、やりがい、自らの姿の振り返りを子供自身でできるようになってきたことから、授業以外の学校生活の場面においても、PDCAサイクルをくり返す場の設定の必要を意識化できた。

・ 「問い」や「願い」を大切にしたい学びに向けて、「その子自身から発せられる問いや願いに気付く教師の感性」と「ズレを活かした、問いを生み出す学びの場の工夫」に視点を当てた実践を試みた結果、個の追究は協働に寄って深まることが改めて確認され、協働で学びたくなる学習集団形成(環境作り)が教師の支援であること、地域素材の教材化が重要であることが再認識された。

・ 情報活用能力の育成を意識したことで、ICT活用を含めた多様な教育方法の在り方を試みるきっかけとなった。

## 【課題と改善方策】

### ① グランドデザインの設定について

一部教科担任制や異学年合同授業が学びを深める多様な指導・支援、UD教育推進による互いに認め合い安心して語り合える学校づくりが進んだが、自学自習力の向上、対話と

寄り添いを通じた学びの深まりがコロナ禍もあり、依然として課題である。また、カリキュラム・マネジメントの観点から「自学」の内容、教科等の学習との連続性について再検討したい。

② 地域の教育資源の活用について

総合的な学習の時間を核に地域素材を活用した学習が活動にとどまらないよう、教師の教材研究(含学習内容の系統性)や子供たちの体験活動を通しての学びの深化について研究を深める必要がある。

③ 教育実践の継続性について

個々の教育実践が教員個人の特性としてとらえられてしまう傾向があることから、カリキュラム・マネジメントを教育実践の系統性・連続性という観点から再検討することで、教材や教材開発の視点の共有化を図っていく必要がある。

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	地域の教育資源の教材化に関わる研究
7月	グランドデザインの点検
8月	カリキュラム・マネジメントに関わる校内研修
9月	修正した指導計画に沿った授業実践
10月	カリキュラム・マネジメントに関わる校内研修
11月	授業実践
12月	視察研究授業による授業研究
1月	カリキュラム・マネジメントに関わる校内研修
2月	授業実践の振り返り
3月	来年度に向けての計画立案

実践校【長野市立東北中学校】

(1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

(2) 調査研究の内容

地域の教育資源を活用し、わかる喜び・学習意欲の向上を目指し、各教科における見方・考え方を重視したカリキュラム編成と授業実践の在り方を探る。

(3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

[成果]

① 地域の教育資源の活用について

2019年の台風19号で学区内の千曲川の堤防が決壊したことによる被災経験を活かし、

学校と地域が「共助」できる地域との連携（東北コミュニティースクール）を推進する中で、「復旧・復興」をテーマに「探究的」な学習の構築を試みた。

【探究課題】		【育成を目指す具体的な資質・能力】		
		知識及び技能	思考力，判断力，表現力等	学びに向かう力，人間性等
1年	「復旧・復興」 ・自然災害と防災・減災  ・台風19号被災から「復旧・復興」を目指して様々な活動に取り組んでいる人々  ・地域の人々の「復旧・復興」に対する願いや考え  ・仲間と共に地域のために自分たちができること	・被災の実際から，地域の防災・減災についての情報を調べたり，整理したりする。	<b>【課題の設定】</b> ・地域の実情と自分を比較しながら適切に課題を設定する。 <b>【情報の収集】</b> ・目的や活動に応じて適切な方法で情報を収集する。	・自ら課題意識を持ち，進んで課題解決に取り組むと共に，学習したことをもとに，新たな課題に取り組もうとしている。
2年		・地域の方の話を聞いたり，情報を調べたりする中で，自分との関わりや地域の願いがわかる。	<b>【整理・分析】</b> ・活動から学んだ事実を整理し，友との学び合いの中で自分の考えを深める。 <b>【まとめ・表現】</b> ・課題解決に向けて導き出した自分の考えを，相手にわかりやすく伝えるように工夫して表現する。	・様々な学習活動の場面において，他者と関わる中で相手の気持ちや考えを考慮し，自分自身の行動を選択することができる。
3年		・体験活動で得た情報を比較・整理する技能を身につけ，新たな課題設定につなげる。		・地域の一員として，地域に誇りを持ち，地域に貢献しようという自覚を高めている。

地域との連携を広く知ってもらうことを目的に，諸活動を報道機関に取材・報道してもらったことで，地域の多くの方々に活動を知ってもらえたと共に，地域の方から生徒に直接感謝の言葉が得られたことで，生徒自身が活動の必要性を感じ取ることができたと同時に，自己肯定感・有用感が高まった。

また，地域の実情や地域の方の思いを直接知ることによって，生徒にとって地域の課題を直接肌で感じ取る機会となり学習意欲が高まったと同時に，教員が改めて地域と関わる学習活動の有効性に気づくきっかけとなった。

## ② わかる喜び・学習意欲の向上に向けた教科学習について

総合的な学習を地域との共助という観点で推進するに当たって，教科学習との関連を以下のように想定し，教科学習との関連性を意識した指導に努めた。

- ・国語：社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力を養う。
- ・社会：社会的事象の意味や意義，特色や相互の関連を多面的・多角的に考察したり，社会に見られる課題の解決に向けて選択・判断したりする力，思考・判断したことを説明したり，それらを基に議論したりする力を養う。
- ・音楽：音楽活動の楽しさを体験することを通して，音楽を愛好する心情を育むとともに，音楽に対する感性を豊かにし，音楽に親しんでいく態度を養い，豊かな情操を培う。
- ・技術・家庭：生活や社会の中から問題を見いだして課題を設定し，解決策を構想し，実践を評価・改善し，表現するなど，課題を解決する力を養う。

学校評価アンケート「授業を受けての達成感（総合的な学習の時間）」を見ると、  
 2020年度2学年 「感じることが多い」43.9% 「たびたび感じる」45.9%  
 2021年度3学年 「感じることが多い」48.6% 「たびたび感じる」44.4%  
 と伸びており、体験活動と教科学習との連携が重要であることが改めて認識させられた。

[課題と改善方策]

① 地域の教育資源の活用について

地域との連携で展開する体験活動について、先生方の手配による活動内容が多かったの  
 で、生徒自身の発案による活動に発展させる方策を考える。

② 教育実践の継続性について

これまでの教育実践は単年度で括られ、教員が変わると継続されなかったことから、実  
 践内容等を引き継いでいく継続性の方策を提案する。

③ 各教科における見方・考え方を重視したカリキュラム編成について

「学びの個別化最適化」と「個別学習」との違いや教科等横断的な学習指導等に関わる  
 の共通認識が確立していないことから、カリキュラム・マネジメントの視点からの教師の  
 意識改革のための校内研修の充実を図る。

(令和4年度の計画)

	1学期	2学期	3学期
1学年	総合的な学習 「復旧・復興」 オリエンテーション 地域の人の 思いを知る	三葉タイム活動デイに向けた計画・ 実践	ハッピーフ ラワープロ ジェクト
2学年	ハッピーフラワープロジェクト 学年集会 「種まき」	ハッピーフラワープロジェクト 「草刈り」 「片付け・種取り」	引継ぎ集会
3学年	各クラス 活動テーマ 決めだしの ための調査 情報収集 整理・分析 計画立案	三葉タイム 活動の振り返り 活動デイ の実践	

(4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	地域との連携を深めるための体験活動の計画 生徒の意識の醸成
7月	地域連携による体験活動
8月	地域連携による体験活動 カリキュラム・マネジメントの研修会
9月	地域連携による体験活動 グランドデザインの点検
10月	地域連携による体験活動 カリキュラム・マネジメントの研修会
11月	地域連携による体験活動
12月	2学期の実践の振り返り

1月	カリキュラム・マネジメントの研修会
2月	来年度に向けて
3月	グランドデザインの設計

## 実践校【長野市立長野中学校】

### (1) 研究テーマ

- a 学校の教育目標等（目指す児童生徒像や教育課程編成の重点など）の設定及び実現に向けた研究
- b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究
- c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究

### (2) 調査研究の内容

小・中・高校を一貫する情報活用能力育成のカリキュラムの開発と、教科横断的な内容を能動的に展開するPBLの展開を試みる。

### (3) 調査研究の結果明らかとなった成果・課題と改善方策

[成果]

#### ① 情報活用能力育成のカリキュラムの開発について

生徒一人に一台ずつタブレットPC(chromebook)が配布されたことを受け、昨年度から取り組んでいるMicrosoft Teamsを活用した学習の在り方を試みた。具体的には教科や学年・学級でチームを作り、デジタル教材（動画・学習カード等）を作成したり、学習に役立つコンテンツの情報を調べたりして、コンテンツの充実と生徒の学習への活用方法を探った。結果として、教室での学び・家庭での学び・地域調査等での活用と新たな学びの在り方を教師も生徒も手探りで開発し実践することができた。

特に汎用アプリケーションの活用により、生徒が主体的に学習に取り組み、日常的に各種ソフトウェアやデジタルコンテンツ等を使いこなしていく姿が見られた。生徒も含めた学校全体が、個別最適な学びや協働的な学びの実現のために、ICT利用と運用の面で、よりよいものや方法を探り、使いやすく効果的な利活用につなげる機運が高まった。同時に、特別教室や家庭にいる生徒への授業や教材等の配信、共有が可能なことから、生徒の支援に加えて、新型コロナウイルス感染症対策として、通信環境を整えば、どのような事態になっても「学びを止めない」対応が可能になった。

また、elearningによる学習の成果とは必ずしも言い難いが、積極的にコンテンツを開発し、基本的な内容の習得に挑んだ教科において、知識理解においての有効性が見出された。

② 教科横断的な内容を能動的に展開するPBLについて

「自学自習の資質能力の伸長」の具現に向けて具体的な方策を作成し、職員間で共有する。ICTの活用や地域の教育資源の活用等に取り組んだ。

段階	I 確実に	II 「子どもが」を主語に	III 「自分で」から始まる
教科学習	<ul style="list-style-type: none"> <li>学習ルールの定着</li> <li>基礎的・基本的な知識・技能の洗い出しと職員間の共有</li> <li>基礎的・基本的な事項に関わる、確実な指導と客観的な評価</li> <li>丁寧な補完指導</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>子どもの興味や関心から始まる学習</li> <li>子どもが問題の解決方法を考える学習</li> <li>子どもが試行錯誤しながら、結論を導き出し、結果を表現する学習</li> <li>他者との相違を考えながら取り組む学習</li> <li>五感を働かせ、教科の本質にふれる学習</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分で考え、判断したり、考え直したりして進める学習</li> <li>問題や課題を明確にして、結果を見通して解決する学習</li> <li>他者と共通の目的を共有し、協働的に取り組む学習</li> <li>自分の考えや思いを積極的に伝え、よりよいものを考える学習</li> <li>他者の話を聞き、対話的に物事に取り組む姿勢の育成</li> <li>心と体を働かせ、見直しをもって行動する態度の育成</li> </ul>
教科以外	<ul style="list-style-type: none"> <li>生活ルールの定着</li> <li>個の特性のとらえ</li> <li>集団生活への適応の支援</li> <li>様々な体験</li> <li>多様な人々との関わり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の関心や意志を大切にしたい学習や活動</li> <li>相手の状況や気持ちを考える学習や活動</li> <li>感性を働かせ、多様な考えや価値観にふれる学習や体験</li> <li>自然や社会の仕組みを実感する学習や活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>気持ちや行動を自律的に調整し、他者と折り合いを付けながら、自分の身の回りをよりよくしようとする学習や活動</li> <li>他者との違いを乗り越え、社会や今後の生活の中に、新しい価値や方法を創出する学習や活動</li> <li>自分の願いや目的を明確にして、主体的に取り組む態度の育成</li> </ul>
ICT活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>一人一人の知識・技能の確実な習得を促すソフト等の活用</li> <li>直接体験や人との関わりとのバランスに留意した利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>目的を明確にした日常的なICT機器の利用</li> <li>多様なソフト利用による学習のまとめや発信</li> <li>他者と関わる「コミュニケーションツール」としての利用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>発展的な学習や学校外での学びにおける積極的な利用</li> <li>自分の学びや体験の蓄積し、履歴として利用</li> <li>目的に応じた発信ツールとして利用</li> <li>自己表現や目的を達成するためのツールとして活用</li> </ul>
家庭	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的な生活習慣の確立</li> <li>家族の対話や読書の促進</li> <li>体を動かす習慣づくり</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の役割を自覚し、進んで物事に取り組む態度の育成</li> <li>自分の健康や成長を考えた日常の実践</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>家庭における自分の役割の意味を考えた自律的な行動</li> <li>目的に応じた読書や創作活動</li> <li>生きる意味を考え、自分を大切に、他者を思いやる態度の育成</li> </ul>
地域	<ul style="list-style-type: none"> <li>豊かな自然体験や社会体験</li> <li>地域文化や伝統の体験</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域社会から情報を収集し、地域への親しみを深める機会の創出</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分が所属しているコミュニティ(居住地・学校・部活動等)における意味や役割の自覚</li> <li>地域社会の一員としての自覚できる機会の創出</li> </ul>
連携	<ul style="list-style-type: none"> <li>個に応じた校内支援体制作り</li> <li>幼保小中高の確実な接続</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>特別な配慮を要する子ども支援の充実</li> <li>学社(医療・福祉等)の有機的な連携</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自己肯定感・自己有用感を高める支援の検証と学校間共有</li> <li>幼保小中高一貫した子どもの育ちの記録蓄積(キャリアパスポート)</li> </ul>

特に教科学習における自由進度学習による個別最適な学びについては、理科において生徒が時間配分や学習方法、学習環境等を計画・選択しながら、理科の見方や考え方を深めていく授業(単元内自由進度学習)を試みた。学習後の生徒のアンケートでは、「自分で色々なことをまとめる力がついたと感じた。また、家での学習を余儀なくされても、人に頼らず自分で上手に工夫をして進められる」「将来社会に出た時、自分で勉強する機会が増えると思うので、年に数回自由進度学習をやり今後に活かしたい」といった感想があり、約8割の生徒が「年に何回かは自由進度学習で学びたい」と答えた。なお、学習内容の定着度も良かった。

地域の教育資源を活用した総合的な学習は、自己を問ながら防災・減災やグローバル、地域の活性化に関わる体験的な学びを展開し、生徒は意欲的にも学びに取り組むことができた。

[課題と改善方策]

① 地域の教育資源の活用について

地域の教育資源を核とした防災・減災、グローバル化、地域の活性化に対応した総合的な学習は、当然教科学習の成果の上に展開されるものでなければならないが、ともすると教科の本質・教育内容の連続性と系統性、教科間の関連性への意識が、総合的な学習の展開に目が向きすぎて、曖昧になってしまいがちであることから、改めてカリキュラム・マネジメントの視点から学習指導要領の解釈等の研修が必要といえる。

② 教科横断的な内容を能動的に展開するPBLの展開について

探求学習の成果が出るとともに、生徒の興味・関心が多様化することから、生徒の関心意欲を重視した多様な学びに対する対応をどのように考えていくかを探る研究が必要とな

っている。

### ③ 情報活用能力の育成について

ICT活用に当たっては、状況に応じて適宜有効的な活用を手探りで見出し、効果が見られてきたことから、情報活用能力の育成に関わる構造を意識することがまだ希薄なので、各教科等の目的と情報活用能力の育成の観点から学習意図との整合性を今後研究する必要がある。

## (4) 実践校における年間実施スケジュール

月	取組内容
6月	教育課程の見直し
7月	ICT活用やPBLによる授業
8月	カリキュラム・マネジメントに関わる研修
9月	ICT活用やPBLに関わる授業の公開研究
10月	
11月	カリキュラム・マネジメントに関わる研修
12月	▼ カリキュラム・マネジメントに関わる研修
1月	▼
2月	授業実践の反省
3月	学習発表 次年度に向けて教育課程の検討

## 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

(○：成果，●：課題)

- グランドデザインを全教職員で見直し活動を通して、学校教育目標の具現化に向けた教育課程の編成の在り方と授業改善の視点を教員が持てるようになった。
- 地域の教育資源の活用と教育課程の編成とが有機的につながっていることを教員が意識できるようになった。
- 教室での学びと教室外（家庭等）での学びの差別化を意識した指導計画の作成や学習展開を考え実践するようになった。
- グランドデザインを全職員で作成したことで、指導の方向性が全職員で共有され、児童生徒が「何を」「どのように」学ぶかが校内で統一され、児童生徒が自ら課題を持ち、自主的に学習に向かう姿勢が見られるようになった。
- 総合的な学習の時間を核に、資質・能力を明示した指導計画を作成したことで、教科の目的や教科間の関係等を意識した教師のカリキュラム・マネジメントに関わる資質・能力の向上に役立った。
- ICT活用や教育情報化に関わる教師の意識変革が大きな課題であったが、GIGAスクール構想が前倒して進捗し、機材が配置されたことから、教師の意識変革も進み前向きに展開された。
- これまでの教育実践から、経験的に教材研究や教材化が教師個々の熟練技として展開

されており、1校の教育課程編成の継続性等の発想がなかなか根付いていない側面が見受けられることから、学校としての文化としての教育課程を編成するためのカリキュラム・マネジメントという意識を持ってもらう研修の充実が求められる。

- 自学もしくは「問い」の設定について、必然性は教師間で共有されているが、個別最適な学びや協働的な学びについての解釈が曖昧であることから、教科の目的や特性・総合的な学習との関連性について研修を深める必要がある。
- GIGAスクール構想に向けて、教師の取り組みは前向きに展開されているが、ICTを使うことに意識がいきがちなので、ツールとしての活用の在り方を児童生徒共に追究していくことが望まれる。

#### 4. 参考資料

##### 【必須】

- ①実践地域の取組の概要
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料